

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2470501418		
法人名	有限会社 すずらん		
事業所名	グループホーム潮風		
所在地	三重県津市阿漕町津興214番地2		
自己評価作成日	平成24年10月31日	評価結果市町提出日	平成 25 年 4 月 17 日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/24/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JivogyoCd=2470501418-00&PrefCd=24&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成25年3月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者のもみならず、御家族も含めた大家族だと捉えている中では日常的に御家族との交流がある。入居者の方を中心に、職員ともぎっくばらんな関わりをもって頂いている。日常的に訪問があり、オープンで家庭的な雰囲気が自慢です。終の棲家として、ご本人やご家族様の最期の迎え方を尊重する中で、平穏死、グループホーム潮風での看取りをさせて頂いている。ターミナルケアに際しては、御家族様の方向性に寄り添い、柔軟な対応をさせて頂いている。主治医の指導を基に、ご家族、職員が心を合わせ、心穏やかに終末を迎えて頂いている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

笑顔とやさしさでその人に寄り添い、居心地の良い生活ができるようにオンリーワンの支援を実践することを大事にしている。その為には観察力を養い、見守り、適切な支援ができるよう職員が心掛けています。家族の意向があれば看取りを受け入れており、家族と共に最後を迎えることで、家族が安心して終末に対応できるよう支援している。地域の方々と様々な交流を実施しており、地域の一員として地域に理解されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	その人がその人らしく暮らせる、個人に合わせたオンリーワン支援、笑顔あふれる暮らしを大切に。という理念の基、入居者、御家族、職員、が思いをひとつにした日常的な関わりを持つ中で、我が家に居るように過ごして戴いている。	笑顔とやさしさをオンリーワンの支援をするを理念とし、理念に賛同した方々を採用し、実践している。理念を掲示し、日々、ケアするにあたり利用者に対応する方針がぶれないよう管理者は注意を払っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会、子供会、幼稚園等、行事等に参加したり、協力したり等、日常的な交流をしている。地域の一員として、減塩味噌、ごきぶりだんご作りは定着している。又防災教室や認知症の勉強会等を開催する中で地域力になるよう努めている。	事業所から地域に発信すること、管理者と地域住民との長年の関係から交流が行われている。減塩味噌作り等を住民と共にしたり、AED講習会を開催したり、子供会のウォークラリーの中継点を引き受ける等、地域との関わりを大切にしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーター養成講座を定期的で開催したり、行事等の機会を利用する中で、認知症の専門施設として、いつでも気軽に相談できる地域の窓口として立ち寄って頂けるようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	偶数月の第3金曜日を定期開催として、計画的に参加して頂いている。毎回、潮風の現況報告、その都度の課題を話し合い、行事等に反映させている。災害対策は永遠のテーマであり、潮風の取り組みの実情を毎回報告している。	自治会長、民生委員、家族代表、市の担当者が参加し、偶数月の第3金曜日に開催している。津波等の災害に関しての意見交換が多いが、事業者の課題に対しそれぞれの立場で助言をもらい反映している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日常的に質問や相談に気楽に応じて頂いている。その都度、細かなアドバイスや指導を頂ける、気軽に相談できる場としてとても心強い。	日頃から担当者に困っている事等を管理者自ら発信することで災害対策の基盤整備補助事業の情報を把握し、取り入れている。コミュニケーションを密にすることで市との連携を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアについては、その具体的な例を挙げ説明したり、マニュアルを用いて職員に徹底している。危険を回避するための個々に応じた方法については、御家族、職員等の意見を含め、その都度最適な方法を検討している。	玄関は自動ロックから手動に変更されているが、防犯上、手薄になる時は施錠されている。毎年、研修会を行うと共に、拘束に繋がる行為に対しては、その都度、話し合っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	法律の内容、課題背景を示し虐待のない介護を徹底している。入居者の介護リスクを全体の問題として捉える中で情報を共有し、職員の介護ストレスが虐待に連鎖しないように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護等については、マニュアルを常備して理解に努めている。今年度8月初めて成年後見制度利用対象者が入居された事を受け、改めて制度の実情を共有している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居に至るプロセスをお聞きしていく中で、本人やご家族の思い、要望等を十分に傾聴し話し合いを深めている。潮風とご家族が思いをひとつにした相互理解をした上での契約としている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々の関わりの中で思いを言い出しやすいように声かけている。面会の際には近況報告とご家族のその都度の思いや要望を聞かせて頂いている本人の状態を示しながら、要望の実現に向けた取り組みをしている。	面会時に家族と話し合う機会を持ち要望等の把握に努めると共に、面会票には話し合った内容を記入し反映に努めている。家族会の参加率が高く、家族間の交流を進めるとともに意見交換をする機会となっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の業務の中で、意見交換を密にして反映するようにしている。情報共有ノートを通じてその時々々の意見や提案、困り事についてを記入、日常的に活用している。	管理者には意見を言い易い雰囲気が出ており、日頃の意見は情報共有ノートに記入し、検討し対応している。管理者の判断で物事を改善できることで時間を要せず実施している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	苦手分野のある職員には力量のある職員や管理者が克服に向けてのサポートを日常的に行っている。自信を積み上げる中で、モチベーションが高められるよう支援、頑張った職員が報われるような賃金体系になるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の力量が高められるように、その都度可能な方法で資質の向上に向けた指導、内部学習に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービス協議会、介護福祉士会、認知症と在宅介護を考える会、他のグループホームや医療関係者とも交流し見聞を広げたり、研修行事等を活用し資質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメントした情報等、含めた中で、ゆったりと傾聴し本人の願いや希望等、本人の真の思いを引き出すようにしている。安心、安全な過ごし方についての話し合いを深めていく中で、信頼関係が築いていけるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設入居に至るまでの苦悩や葛藤について、ゆったりと傾聴する中で、不安に思っている事、求めている事等を把握していく。本音が吐き出して頂けるような対話を心掛け、信頼関係を構築していくようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	表面的な訴えに捉われることなく、対話していく中から真に必要としている事を見極め、相談を傾聴する一方で、専門職としての見解を示し改善に向けた支援に繋げていくようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の家事など、できる事は協働で行い、共に仕事をする中で得意を発揮して頂くようにしている。そのような機会が本人の意欲を引き出し、自信の回復又生活力の喚起へと繋げていけるように支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	潮風は入居者・御家族・職員がひとつの家族だと捉えています。日常的に気軽な出入りをして頂く中での交流は、本人にとって潮風は我が家であり、<潮風での看取り><家族に囲まれて最期を迎える>が、意義あるものへと繋がっています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の希望、御家族の意見を聞かせて頂き、今までの本人を取り巻く環境等を勘案する中で、出来る限り、入居までの関係を大切にしている。	利用者は周辺に居住していた方が多く、近隣の友達が来所したり、事業所のミカン狩り等に友達を誘ったりして関係を継続するよう努めている。家族の協力を得て馴染みの場所に出かけたり、事業所も可能な限り出かけるように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	本人の性格、趣味、職業、今までの生活環境、又身体の状態等を勘案しながら、相性の良い方を見極め、関係作りへと繋げていくように側面的な支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院された方、ターミナルケアにて退所となられた方等、ほとんどのが家族の方が立ち寄り下さったりと、現在も日常的に交流している。又行事等にも声かけして参加していただいている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人や御家族の思い、希望をしっかりと傾聴する中から、ご本人にとっての最適な方法を引き出していけるように支援している。	日頃から利用者に寄り添い、接することで表情から思いを汲み取るように努めている。さらに、利用者の生活歴・過去を把握し、利用者の意向にあう支援を心掛けている。管理者もその都度、職員にアドバイスを行い、把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や過ごし方等、本人と御家族の情報の基、今まで慣れ親しんだ暮らし方を尊重出来るように常に心掛け、生活に反映できるように支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の暮らし方、価値観を尊重した日課を工夫する中で、生活の喚起が図れるよう職員はさりげなく側面的な支援を心掛け、その時々々の本人の希望を取り入れた生活が可能となるように支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人や御家族がどのように生活していきたいと思っていられるか、細かな状態の変化に応じた支援方法の検討を日々重ねながら、十分な話し合いを深め、本人らしい生活の実現に向けた介護計画を考案している。	6か月毎に見直しを行っており、担当者がモニタリングを行い、情報共有ノートを活用し計画作成者が計画を作成している。家族の意見は面会時やメールにて確認を行い、計画に反映している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録を基本に捉える中で、リスク管理するために必要な情報の共有、特記の記録、個々の状態に応じた詳細な援助方法を情報共有ノートとして日常的に活用、個別な支援へと繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その人がその人らしく暮らせる、個々に合わせたオンリーワン支援を工夫している。日常的に御家族との交流もあり、その都度の状況に応じた最適な方法を話し合う機会となり、柔軟な対応が可能な環境となっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣自治会、子供会、民生委員、幼稚園、保育園等の協力をはじめ、医療福祉関係者との交流を通して社会性の充実を図り、入居者が安心して安全に楽しんで暮らせる生活づくりに努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	個々の入居者、ご家族の意向を反映した上で、協力医による定期往診及び24時間対応による随時の相談、往診体制をとっている。	利用者及び家族が希望する医療機関に受診することを優先しており、協力医以外の受診は家族及び事業者が対応している。現状を伝える書面を家族に準備し、受診支援をしている。協力医とは往診や緊急時の対応について指示を受けている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	連携医院の看護師には、日常的に相談している。医師の所見等を含めたアドバイスがその都度あり、とても安心感が持てる体制づくりを構築している。又地域の看護師との交流も多く情報交換も密にしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	御家族、医師、看護師、ソーシャルワーカー、病院関係者との交流を日常的に行う中で、そうした時に最善な対応が可能となるような、関係づくりの構築に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期のあり方については、日頃から御家族、主治医との話し合いを重ね万が一に備えている。並行して個々の終末期のあり方についての情報を職員間で共有、その方と御家族にとっての、最善な終末期ケアに向けて意思統一を図っている。	重度化・終末期ケア対応指針があり、家族の意向を確認し協力医と連携し看取りを実施している。ターミナルの前には職員に指導・研修を実施し、家族と共に寄り添い、平成24年度は3人の看取りを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	個々の身体状況については、各職員が日常的に把握し予測される事態に備えている。一方であわてず的確な行動、適切な対応が(応急処置を含む)可能となるよう、日常業務の中で話し合いを深め実践に繋げている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時の対応についてはマニュアル化して施設内要所に掲示している。津波等の指定避難場所はとて遠く又身体的精神的不利ある認知症高齢者の利用は困難である。近隣自治会等の協力あり、身近な避難場所を現在検討中である。	災害時のマニュアルが事業所のいたる箇所に掲示されている。昼・夜を想定した訓練を実施しており、通報訓練を計画中である。災害時の避難場所に近隣にある市営住宅で受け入れて欲しいと自治会や市に交渉する等災害に備えている。	実施した訓練の記録(課題・対応)を整理し、次年度の訓練計画に活かすとともに、災害時にスムーズに行動できることを期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々のプライバシー、プライド、人格の尊重等については、職員間で十分に意思統一を図り、個々に応じた、その人にふさわしい対応を、その都度工夫している。	その人のその日の気持ちに寄り添い、部屋で利用者の望むことを実施する等の工夫をしている。あからさまに非難しないように留意したり、呼称は苗字であり、認知の状況により旧姓で呼ぶ等、その場面に応じた対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の気持ちに寄り添う中で、その時々々の思いを共有共感し、真の思いが意思表示して頂けるように側面的な働きかけをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人が自信を持って生活できるよう、職員はさりげなく側面的な働きかけをしている。その日の身体の状態や気分配慮しつつ、本人の希望を取り入れた過ごし方が可能となるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着心地、着脱を優先する中ではあるが好みを反映するようにしている。アクセサリー、マニキュアなど希望ある時は職員がお手伝いして、おしゃれを楽しんで頂く。又家族の方の眉そりボランティア訪問も楽しみのひとつとなっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	栄養だけに捉われず、その日の入居者のリクエストに応えたり、旬のものを献立に加えたりする中で食事が楽しみとなるようにしている。又大家族のように同じテーブルを囲み、会話しながらの食事も楽しみな貴重な時間となっている。	職員と共に会話をしながら、和気藹々と食事している。調理の下ごしらえに利用者は参加しており、利用者の希望を聞き、臨機応変に献立を変更し希望に添うように努めている。また、畑で採れた旬の野菜等を取り入れ季節感を出している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	カロリー、栄養配分、水分量、好み、又主治医等の意見を勘案する中で個々の摂取の目安を決めて対応している。個々の口腔機能に応じた調理方法や好み等を配慮する中で食事を楽しみとし、いっしょに工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後必ず残渣物を除去、その都度必要な口腔ケアを実施している。朝夕の歯磨き、うがい、口腔内の洗浄、義歯は洗浄し夜間ミルトン消毒している。個々に状態に応じた方法で、口腔内の清潔を保持している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意のある、ない方を問わず自然な排泄が可能となるよう特別な事情がない限り、日中はトイレ使用を基本としている。排泄パターンに応じて定期的及び随時に気配や訴えに対応、側面的な自立支援に努めている。	トイレでの排泄を原則としており、排泄パターンを把握し、個々に応じ声掛けし誘導している。入居後、トイレ誘導することでオムツからリハビリパンツに改善するケースもあり、利用者の行動に留意し誘導するように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排泄リズムを確認した上で食生活を工夫し整腸に努めている。トイレでの排泄時必要に応じて腹部マッサージ等自然な排便がへと繋げている。体操や歩行訓練など自身のできる方法での運動を日課としている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	特別な事情のない限り毎日入浴している。清潔保持、血液循環の向上、爽快感等を視野に入れ実施しているものの、入居者の日課となり入浴を楽しみにされている。気分転換や健康維持におおいに繋がっている。	入浴は、原則として毎日午後実施しており、入浴後には野菜ジュースで水分補給、皮膚のケアを行っている。入浴を嫌がる利用者に対して個々に対応する方法を見つけ、誘導している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その人のその日の過ごし方を優先している。日中は出来るだけ楽しみな時間を共に過ごす中で、天気の良い日は屋外で日光浴や散歩を楽しみ、夜間の安眠へと繋げている。個々の眠りに合わせた就寝、起床へと側面的に支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の処方箋にて、薬効、薬害、服用方法等を確認、又情報共有ノート等を使用して全職員の認識を深めている。又日常生活の関わりの中で微妙な変化を察知する視点を持ち、日々関わるように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の趣味や過去の生活の仕方を理解する中で、好みや能力に応じた家事を選び自信の回復、自信の喚起へと繋げている。家事を分担し協働することが、大家族の中での役割意識、連帯感、達成感へと繋がっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的に外気浴や散歩を日課にしている。近隣の方とのふれあいや季節を感じて頂く機会となっている。地域の自治会。子供会等の行事や幼稚園行事等も外出の機会となったり、交流の機会となっている。	気候の良い時期は玄関前の椅子に座り、日光浴を楽しんでおり、近所の公園・畑・季節の花見等に出かけている。また、家族の協力を得て、外食等に出かけたり、地域の行事に出かけたりしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人やご家族の意向に沿って対応させていた だいている。小遣い程度を自身で持ってみえる 方も居られるものの、希望されるものを献立に加 えたりおやつに取り入れている中では使い道も なく、自身で持っているという満足感に留まって いる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙 のやり取りができるように支援をしている	御家族や知人との交流が活発に継続して頂 けるように支援している。その都度の訴えに 耳を傾けながら相時々の思いの実現に必要な 支援を心掛けている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴 室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をま ねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がな いように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、 居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂、リビング等の共同スペースは邪魔に ならないような音量でBGMを流し柔らかな空 間としている。玄関や廊下、居室には季節 行事、個人の写真等思い出のものを掲示、 満足気に眺めては会話の糸口にも繋がって いる。	食卓には、職員が持ち寄る季節の花で飾ら れ、会話の材料になっている。壁には利用者 の季節に応じた作品や行事の写真が飾られ ている。天窓・広い掃出しの窓があり、明る く、居間で過ごす利用者が多い。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利 用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の 工夫をしている	リビング等はふれあい、交流を楽しむ空間とし て、ソファでは親しい人とおしゃべりやご家族 や知人の方と、家庭的な雰囲気の中で自由に寛 いでいられる。独りになりたい時には居室だつた り、廊下のソファだつたりと思ひ思いに過ごされて いる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談 しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし て、本人が居心地よく過ごせるような工夫をして いる	慣れ親しんだこだわりのものを個別に使用 して頂いている。違和感なく、落ち着いた気 持ちで過ごして頂けるような居室作り等をご 本人や御家族と十分話し合いながら実現し ている。	ベッド・筆筒・机・椅子は備えつけであり、花(プリザード)が 飾られている。筆筒の容量が多く、室内はすっきりと整 理されている。利用者の動線に沿ってカーペットを貼り、転 倒防止等に努めている。家族の写真やワッセグのテレビが 置かれる等、利用者に応じた空間になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかるこ と」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活 が送れるように工夫している	日常生活すべてにおいて、個々の出来る所、出 来ない所を詳細を把握、状態に応じた支援をして いる。残存機能を含めた身体機能を勘案する中 で個々の動きに合わせた動線を確保するなど、 自立に向けた側面的支援をしている。		